

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|--|---|-----------------------------|
| 課題番号 | 25221201 | 研究期間 | 平成 25 年度～平成 29 年度 |
| 研究課題名 | ナノ病原体の統合生物学・宿主細胞内絶対寄生の複合生命体としての理解に向けて- | 研究代表者 (所属・職) <small>(平成28年3月現在)</small> | 難波 成任（東京大学・大学院農学生命科学研究科・教授） |

【平成 28 年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 |
|--|---|
| A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| A- | 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| <p>(意見等)</p> <p>本研究では、ファイトプラズマ及び植物ウイルス（ナノ病原体）に関して顕著な業績を上げている研究代表者らが、ナノ病原体と宿主細胞を統合生命体として捉えて、数多くの統合生物学課題を展開している。成果は着実に得られており、それらの一部は国際的に著名な学術雑誌に公表されている。中でも、病原性誘導経路の解明においては、ファイトプラズマ感染による葉化症状の原因遺伝子ファイロジェンを同定し、その詳細な病徴誘導機構を解明しており、学術的価値は高い。</p> <p>さらに、ウイルス抵抗性遺伝子や植物ウイルスの RNA サイレンシングサプレッサーの機能解析等が行われ、ナノ病原体の防除に向けた分子生物学的基盤が構築されつつある。</p> | |